

令和6年度 測量士試験 問題と解答 午前 No26 (応用測量)

<R06-No26 : 応用測量 (用地) : 問題>

次の1～5の文は、公共測量における用地測量について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の1～5の中から選べ。

1. 境界確認が完了したときは、土地境界確認書を作成し、関係権利者全員に確認したことの署名等を求める。
2. 境界測量は、近傍の4級基準点以上の基準点に基づき、放射法等により行うものとする。ただし、やむを得ない場合は、補助基準点を設置し、それに基づいて行うことができる。
3. 平地における境界点間測量において、隣接する境界点間の距離が30mの場合、較差の許容範囲は15mmを標準とする。
4. 面積計算は、境界測量の成果に基づき、各筆等の取得用地及び残地の面積を算出し面積計算書を作成する作業であり、原則として三斜法により行うものとする。
5. 用地平面図データは、地図情報レベル250を標準として、用地実測図データの必要項目を抽出するとともに、現地において建物等の主要地物を測定し作成する。